

學術報告

歐洲蠶の名稱

附掛合せ蠶名稱の事

農學士 勝 木 喜 董

此の頃の蠶業界の情況は從來とは變りまして是迄の様に又昔とか中巢とか又は角又とか申しまする様な名を知りその蟲を飼うて居たでは時勢後れにありまして、『キリシタン、バテレン』式の譯の解らない長い名を覺え其蟲を飼はねばならぬ様にありて來たのでありますそおで此の長い名を譯は解らぬが、滅茶苦茶に暗記をして得たりや『オー』と人に話す、おれを聞いた人はまた他に傳へる初めの人が正しく話しても末では可ありの間違ひが出来るものであります、若し初めの人が間違を傳へればそれおそ言語道斷

末に行けば何が何だか想像さへつけ難い間違となるのであります。

近來時々私の所へ此の種の質問が来るのを見ますると此の類の事が世間には少なくない事と思はれるのであります。

先日も或る所で『デアニコ』と云ふ種は何國が原産かとの事でありました故。

『デアギコ』は世界到る所の産で『アバタ』の事である、我が國でも明治以前には甚だ多くあつたものだと冗談を申した事がありました、漸次話を進めて居る中或は『ビアンコ』（伊太利語の白）の間違ひだらうと思ひました故其繭の色は何かと問ひ返しましたら黄色だと云ひます、そゝで是は『デアンヌ』（佛蘭西の黄色の事にして『ジョーヌ』が正しい）の『ヌ』の字を『コ』の字にどゝかで間違へたに相違ないと知りました。が今一つ皮肉つてやれと思ひまして、それは當世大流行の一代雜種の名稱で而かも伊白佛黃の一代雜種だと申しました、すると先方眞面目に夫れがどうして解ると申します故、説明して曰はく。

佛蘭西語で黄色といふ事を『デアンヌ』といひ。

伊太利語で白色といふ事を『ビアンコ』といひますが。

然し君のは黄色の繭を作るのを『デアニコ』といふのだといふから『ビアンコ』と『デアンヌ』の雜種ではないかと笑つたのであります。

こんな風な例は一つ二つではないのであります、今一つ所々で聞きます名稱は『ガラフルフン』であり

ますが、是れは何の事だか一向に當りがつきませんでした。ついで此の頃其の起原を知りました、それは或る所で種箱がありまして其表書を見ましたら Giallo puro fem 『チアロ、プロ、フェム』とありますのに『ガラ、フル、フン』といふ假名付けがしてあります、是から『ガラフルフン』が外國種の或る一種の名稱とありて日本に廣まりて居るのであります『チアロ、プロ、フェム』あらば純黄の雌の意義であります『ガラフルフン』ではどうしても解りつゝおはありませぬ。

抑も名稱などは太郎でも次郎でもどうでもよいやうなもので品質のよいものでさへあればよいのでありますけれども太郎と次郎と間違へ次郎をお花と取り違へては實際の役に立たぬ事が出来はしまいかと思ひます、或る雑誌の卷末の種子屋の廣告に、黄繭種『ブランビュール』といふのがあります『ブランビュール』は純白の意義であるのに黄繭種とあるから何が何だか解らなくあるではありませぬか。

歐洲蠶の名稱の付け方。

歐洲中佛蘭西、伊太利、奧太利等の蠶種を製造する所で其の名稱の付け方は色々ありますが多くは自分の蠶種の名稱に其地方の土地名を命ずるのが普通であります。

佛國種の『ヴァール』 Var

伊太利種の『アスコリ、ピチェノ』 Ascoli piceno

埃國種の『イストリア』 Istria

の様なものがあります。

『ヴァール』は佛國の縣 Département の名でありまた河の名でもあります。

『アスコリビチエノ』は伊國の縣 Province の名であり『モンタン』commune (最小行政區) の名であり、また町の名でもあります。

『イストリア』は奥國の半島の名であり、また特別領土 Margraviate の名でもあります。

斯様に地方名、山川の名を蠶の名とする例は澤山あります、今一つ繭の色を直ちにその名稱とする事があり、

『キネゼオロ』 Chinese oro

『ブランブニール』 Blanc pur

などは此の例でありまして、

『キネゼオロ』は支那金色といふ意義でありまして、『ブランブニール』は純白の意義であります。

今申しました様を次第で蠶の名稱が解るやうになる爲めには、

一、歐洲蠶種製造地の地理を知る事。

二、外國語(佛、伊、奥)の意義を知る事。

此の二項が必要であり、是等がお解りにあれば誠に便利であります、是が解れば佛國種アスコリー、佛

國種キネゼオロ、佛國種マルケ、黃鹼種ブランビユールなどの間違はおある筈がなく、一見直ちに伊國種が佛國種か將た埃國種か解るのであります、故に是から二項に就きましてお話をいたして見ます。

一、歐洲蠶種製造地の地理

歐洲蠶種製造地の重なるものは佛、伊、埃であります、故に此の項を分けまして。

イ、佛 蘭 西

ロ、伊 太 利

ハ、埃 太 利

の三つとして別々にお話をいたします。

イ、佛蘭西 佛國は行政上八十六の『デパートメント』Departments と一つの『テリトリー』Territory とに分たれてあります、是等が一番大きな行政区で我が國の府縣道廳のやうなものであります、是が我が國の都市町村のやうに色々に分たれ各『デパートメント』(佛國語ではデパートマン Department)が『アロンドンデスメント』『カントン』『コンムン』に分たれ國全體で、

『アロンドンデスメント』Arrondissements (佛語では)『アロンドンスマン』。 三六二

『カントン』Canton (佛語も同じ)

二、八九九

五

『ロントマン』Communes (佛語ではコンミュエース)

三六、一七〇

の様が分れ方であり、此の中で養蠶の行はるゝ地方は主として南部でありまして西班牙に境して居ります『ピレネ』Pyrénées 地方より伊太利に境して居ります『アルプ』Alpes 地方に到る一帯であります、此地方の『デバルトマン』(縣)の名を擧げて見ますと次のやうであります。

バーヌピレネ Basses-Pyrénées

オートピレネ Hautes-Pyrénées

ピレネゾリアンタール Pyrénées-Orientales

ゼール Gers

オートガローム Haute-Garonne

アリエージュ Ariège

オード Aude

ヴァール Var

タルン Tarn

アヴェロン Aveyron

エローール Hérault

ロゼール	Lozère
ガール	Gard
アルデーシエ	Ardèche
オートロアル	Haute-Loire
ロアル	Loire
ローム	Rhône
ドローム	Drome
アイン	Ain
イゼール	Isère
オートサヴオア	Haute-Savoie
サヴオア	Savoie
オートザルプ	Hautes-Alpes
バースザルプ	Basses-Alpes
アルプマリチーム	Alpes-Maritimes

此の中二三解説をして見まするべし

『ピレネ』は佛國と西國との境にある山脈の名でありまして佛國の此山脈に沿うて居る地區を三ツに分ま
して

『バースピレネ』即ちピレネ低地。

『オートピレネ』ピレネ高地。

『ピレネゾリアンタール』東部ピレネ。

として居るのであります。

『ヴァール』は西は『ブーシエドローヌ』Bouches-Du-Rhone (ローヌ河口の縣で『マルセーユ』Marseille のある所)北は『バースザルプ』アルプマリチーム』東南は地中海と接して居る縣の名でありまして『コッラ
ン』Cognac と申しまするは此の縣の中にある小都市の名であります。

『セヴェニアヌ』Cevennes は『アルデーシュ』『ガール』等の諸縣と『ロゼール』縣とが境して居る山脈の名で
あります。

『ドローム』『アルデーシュ』『ガール』『ローヌ』の諸縣は『ローヌ』河に沿うて居るものでありまして『リオ
ン』Lyon 及び『ローヌ』縣の首府であります。

佛の伊に接して居る地方の一部分を三部に分けまして『オートザルプ』(アルプス高地)『バースザルプ』
(アルプス低地)『アルプマリチーム』(海岸アルプス)と申して居るのであります。

ロ、伊太利 伊太利では行政区の一番大きいのを『プロビンス』Provinces (伊太利語では『プロビンチア』又は『チバルチメント』Provincia, Dipartimento 縣の如きもの)と申しまして其地方の主たる都市の名を取りまして其の『プロビンス』の名として居ります。此の『プロビンス』の總數六十九あります。其下の行政区としまして百九十七の『チルコンダリー』Circondariiと八十七の『チストレンチ』Distrettiとが(是等は郡の如きもの)あります。是等を更に八千二百六十三の『コンムニー』Comuni (市町村に當る)の小區に分て有ます然し古への領土の區分即ち『コムバルチメンチ』Compartimentiの方が現今の行政区よりも世人に能く解り普通に用ゐられて居ります。それは伊太利半島の北部が五つ中部が四つ南部が五つ是に島が二つ都合十六に分たれて居るのであります。是等の區分中蠶に關係あるのは主として北部で中央部の北によれる部も亦關係があります。即ち北部では

『ピエモン』

Piedmont

『ロンバルデー』

Lombardy

『ヴェネチア』

Venetia

等で中央部では

『マルシエ』

Marches

『アンブリア』

Umbria

等でありませぬ。

『ピエモン』 Piedmont (伊語『ローキモンテ』Piemonte の首府は『チエーリン』Turin (伊語『トリノ』Torino) でありませぬ『クネオ』Cuneo『トリノ』Torino 等の諸縣并に『シネオ』トリノ『ラコンギ』Racconigi『ノッサーノ』Fossano 等の町村は此の區の中にありませぬ。

『ロムバード』Lombardy (伊語『ロムバールヂヤ』Lombardia) の首府は『ミラン』Milan (伊語『ミラン』Milano) でありませぬ『シリン』は以前の『オーストリアンイタリー』Austrian-Italy の首府でありませぬ此の區の中に『シリン』『パヴィア』Pavia の諸縣并に同名の町がありませぬ『ヴェネチヤ』Venetia (伊語『ヴェネチヤ』Veneto) 此の區の中には『ヴェローナ』Verona『パドヴァ』Padova などの縣と同名の町がありませぬ。

中史部に行かちして『アスコリピチーノ』Ascoli-piceno 縣并に同名の町は『マルチ』Marches (伊語にて『マルケ』Marche) 區にあり。

『パルチヤ』Parugia 縣『パルチヤ』町は『ウムブリア』Umbria 區にありませぬ。

『グランサッソ』Gran-Sasso は此の區の中の『チラモ』縣にある山の名でありませぬ。

ハ、埃太利 埃太利は『オーストリアハンカリ』Austria-Hungary と申しませぬ埃太利の皇帝が匈牙利の王であります、さうして『オーストリア』と『ハンガリ』と別々の議會内閣があります。

此中の埃太利は十四縣に分けてありませぬ蠶に關係あります所は

『チロール』Tyrol『ヴェルツ』Görz『イストリア』Istria でありまして

『チロール』には『トレント』Trent (又は『トリエント』Trient)『ボージェン』Bozen などの町があり

『デルツ』には『ゴリチア』Gorizia (又は『ヴェルツ』Görz の町があり

『イストリア』には『トリエント』Triest (又は『トリエメテ』Trieste の町があります。

以上極大略でありますが大體の蠶種製造に關係ある地理の様子がお解りになり同時に蠶の名稱に土地名が關係あり、其の名は何れの國の何であるか、お解りにあつた事と思ひます。

今一二實例をお示しいたしますれば

伊太利又は佛蘭西から直輸入をいたしました種子箱を見ますると

Cellulare Seme Bachi Seleziomto (伊)

Graines de Vers-à-Soie Cellulaires & Sélectionnées (佛)

などの文字があります何れも框製精選蠶種の意義であります、次に製造人住所氏名があるか又は製造場所が書いてあります。

L. L. à Alais (Gard) et Milan (Italy)

F. T. Racconigi—Ascoli-piceno

是は初めのは上 L. L. といふ人の種子で佛蘭西の『ガール』縣の『アレー』といふ所と伊太利の『ミラン』に

店がある事が示され後の『L.』といふ人の種子で伊太利の『ラコニジ』と『アスコリビチエノ』とに製造所を有して居る事が書いてあります、此の『アーレ』『ガール』『ラコニジ』『アスコリビチエノ』等の地名は蠶種の名稱ではなく、また『L.』『L.』『F.』『I.』なども蠶種の名稱ではないのでありますが、以上の文字が特別に大きく書いてある故に、日本に来ると是れが蠶の名稱にある場合が時々あるやうであります、是れを日本に引直して見ますと、假りに又昔の種子紙に、

長野縣上田町 勝木 と書いてありたる時

又昔の代りに『長野』『上田』『勝木』などを蠶の名稱に取換へて用ゐる其後此の上田は此の勝木より絲質がよい光澤が云々と申して居るので面白くはありませぬか。

こんな間違ひのない様に御注意迄に是を書き添へたのでありますが、實際の名稱は更に別の所に、

Races du Var 『ヴァール』種

Races des Pyrénées 『ピレネ』種

Spagnola 『スペイン』

Ascolana 『アスコリ』

Innoc. Chinese ore 『雜種支那金黃』

といふやうに書きつけてあります、是れが土地の名を蠶の名稱にしたものであります。次に字の意義についてお話を致します。

二、外國語佛伊塙の意義

今迄お話いたしました所によりますると地名が色々ありまして従うて蠶の名稱も亦色々あります、さうして同じ品種に變つた名稱がついて居りますものは決して少なくありません、人の情は洋の東西により決して變りはあく、此邊の消息は日本の蠶の名稱と少しも變つた所はありません、是等色々様々の蠶がありますが大きく區別しますると色の付いた繭を營むものと色の付かぬ繭を作るものになります、色の付いた繭と申しますれば主として黄色又は是に近い色で色の付かぬ繭とは白繭であります。歐洲で此見地より地名を名稱とせず、黄繭種白繭種と呼ぶ事もあります。

『チアロポロ』 Giallo Puro (純黄)……伊

『ランゴール』 Blanc pur (純白)……佛

などは此の例であります。

然し一般に黄繭種、白繭種は特別の蠶の名稱でかく白繭を營む種類黄繭を營む種類といふ事であります

る、故に其の土地名を附加する場合があります。

『チアロペルチア』 Giallo Perugia (ペルチア黄)

『ピネゼビアンコ』 Chinese bianco (支那白)

の如きものであります。

あんな事から外國語の意義を知る事が蠶の名稱を知る上に必要であります。

歐洲の蠶種を製造いたします國、佛、伊、埃では夫々佛蘭西語、伊太利語、獨乙語が各々の國語であります。が埃國の蠶種製造地では獨乙語の外伊太利語が用ゐられ蠶の名稱も伊太利語であります。

佛國では黄の事を (ジヨーム) Jaune

白の事を (ブラン) Blanc

伊國では黄の事を (チアロ) Giallo

白の事を (ビアンコ) Bianco

『プロ』Puro『ブール』Purは伊佛の純といふ義であります。

是等に就き例を擧げて見ますと。

『ジヨームデゼツォーム』 Jaune des Cevennes (ゼツォーム黄)

『ブランブール』 Blanc pur (純白)

『ギョロオロ』

Giallo oro puro

(純黄)

『ビアンロヂアポネーゼ』

Bianco Giaponese

(日本白)

あつてあります。

是にあは引續きまして掛合はせの名稱に就てのお話をいかします。

掛合はせの事

佛語で掛合はせのおとを『クロアゼ』Croises といひ、伊語では『インクロチオ』Inrocio といふのであります。

そゝで掛合はせの場合は『クロアゼ何』『インクロチオ何』といふ風に呼び、

Croises……………又は Oroi……………

Inrocio……………又は Inroc……………

と書くのであります。

然るに或人曰はく、

是は『インクロチオヒネゼオロ』では『インクロックヒネゼオロ』だが『インクロック』の方が蟲が丈夫でよ

いと御説明御苦勞の次第であります。

掛合はせをいたします時に一方は必ず自國の在來種を用ゐます故是は云はずと其相手に用ゐたるものゝ

名稱を呼ぶのであります。例へば

伊國種 × 支那白 (Chinese Bianco) = 雜種支那白 (Incroc. Chinese bianco)
 同 × 支那金黃 (Chinese Giallo oro) = 雜種支那黃 (Incroc. Chinese giallooro)
 同 × 日本白 (Bianco Giappone) = 雜種日本白 (Incroc. Bianco giapponese)
 の類であります。

そして多くの場合唯單に『インクロチオ何々』と書いてある時は其の種の雄を用ゐた場合でありまして雌を用ゐた場合は特に『フェミナ』といふ語を書き加へるのであります。故に

Incrocio chinese oro 雜種支那金黃 = 伊國種 ♀ × 支那金黃 ♂
 Femina Incroc. chinese oro = 伊國種 ♂ × 支那金黃 ♀

であり此雌の場合『フェミナ』を初めに書かず最後に書く時もありませう『ギアロンロンヘム』の如きは此の例で純黃の雌が用ゐられた事を示して居るのであります。

Incroc. Giallo puro fem.

是が最初にお話した通り日本に来て『ガラフルフン』になつて居るのであります。

以上は一般の掛合はせの場合であります。が伊太利では掛合はせの特別の場合に『ギンシロ』Bigiallo『ギンシロ』Poligiallo といふ語が用ゐられ、『ギ』は1に『ネリ』は薄山の意譯とありまして其意譯の通り、

「シムヤロ」は黃雜種回交の掛合ばかりとしたものだからである。

伊黃 × 伊黃 = Ineroio Bigiallo (二黃雜種) 又は Bigiallo (二黃)

伊黃 × 支那金黃 = Ineroio bigiallo

などは『シムヤロ』の例であり、さすが後の例の場合は、

Inero. chinese giallo oro イソクロナオヒサゼジアラオロ

又伊 Inero. chinese oro イソクロナオヒサゼオロ

「回交」のじゆんである。

『ポリシムヤロ』の例では話したじゆんではない。

今『シムヤロ』が一つあり、夫は伊黃と支那金黃との掛合はせまします。夫に今一つ外の黄色を掛合はせたいものがあるならば、

伊黃 Ascolana × 支黃 Chinese oro = Bigiallo

Bigiallo × 他の黃 Sferico Rosso Asiatico = Polygiallo

尚『ポリシムヤロ』は『シムヤロ』以外の黄色が掛つた場合のみをいふのではなく、次の様な場合にも『ポリシムヤロ』とすべからぬ。

伊黃 Ascolana × 支那白 Chinese Bianco = Inero. Chinese bianco 雜種支那白

雜種支那白 × 他の黄 Sferico roseo Asiatico = Polygiallo

此の場合の伊黄に支那白の掛合はせは雜種支那白『インク Rocha オヒネゼビアンユ』でありまして出来るものは全部黄色にありませす其の黄色にありませす其の黄色に出来たものに今一回他の黄色を掛け合あはすのであります、是がよく日本に『ポリジアロエキストラ』として來ませす、譯すれば特別多黄即ち色々掛合はせであります、此の種の『ポリジアロ』に日本種又は支那種を掛合はせまして日歐一代雜種又は伊支交(伊太利種と支那種の一代雜種意義?)が出来ることお考へでは甚だお氣の毒であります、殊に此場合には掛合はせに用ふる日本種又は支那種が白繭種でありますれば、白、黄、さ、薄黄あと色々の子がてあります。

工業に於ける地方分散の傾向と本邦製絲工業

農學士 早川直瀨

都市が形成せらるゝに至つた原因としては或は社會上或は經濟上の各種の要求に負ふ所のものであるが又之が根元となりて社會上及び經濟に及ぼした影響も少くない例へば都市の勃興と共に地方の住民殊に農民が其業を捨て、都市に集つて來る所謂農民の都市集中問題の如き或は現今に於る貯蓄機關が動ずれば中央主義であるが故に地方の遊資は集められ中央市場に利用せられて地方金融の逼迫を生ずるが如